

名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラム（2022年度）

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能ないように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは、名古屋市立大学病院（以下、名市大）および教育連携施設において、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する。

本プログラムの特徴は、以下の3点である。

- ① **Education**：多彩な指導者による**充実した教育環境**で研修できる
- ② **Riches**：連携を生かして新生児から高齢者まで**多彩な症例**を経験できる
- ③ **Synergy**：麻酔、集中治療、ペインクリニック、周産期麻酔を**並行して研修**できる

基幹施設は大学病院であり、様々な分野の専門性を持った豊富な指導医陣による充実した教育環境を有する。臨床だけでなく、学会発表や論文作成を積極的に経験することを推奨しており、研究遂行能力やプレゼンテーション技術を同時に身につけられる。また、多分野を並行して研修することで、各分野の研修を補完しあい、より効果的な研修が可能となる。多分野での研修は他科医師や多職種のメディカルスタッフとの交流機会の増加にも繋がり、チーム医療の基礎を身につけるのにも役立つ。

本研修プログラムでは、基幹施設を中心とした研修に加え、それぞれ特色のある教育環境をもつ連携施設での研修を組み合わせることにより、専攻医のニーズに配慮した研修プランを提供し、麻酔の基礎的な知識と技術を習得することはもちろんのこと、様々なサブスペシャリティーを有した麻酔科医の育成を目標とする。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料『麻酔科専攻医研修マニュアル』に記されている。

3. 専門研修プログラムの運営方針

基幹施設である名市大は、専門研修プログラムの中心施設として研修プログラムの運営を担うとともに、研修の質を担保できるように、名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラム管理委員会を開催し、研修プログラムの方針策定・内容の改善、各専攻医の研修の進行状況の把握・修了認定を行う。

● 幅広い研修

研修内容・進行状況に配慮して、プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるよう、ローテーションを構築する。一方で、最低限の必要経験症例数にこだわることなく、それぞれの専攻医が苦手な分野を作らないように、偏りなく研修できるように配慮する。

● 将来の専門分野を探す

特に興味がある分野や得意にしたい分野があれば、大学病院と連携施設の選択肢を最大限に駆使して、キャリアプランに合わせたローテーションを考慮する。

● 様々な施設での経験

複数施設での研修を原則とする。研修期間全体4年間のうち少なくとも1年間は、最長期間所属する予定の施設以外（基幹施設あるいは連携施設A、B）で研修を行う。その際、連携施設Bでの研修は2年を超えないものとする。各施設での研修期間は原則1年以上とするが、専攻医のニーズや連携施設の状況によっては、1施設1年未満の研修も可能とする。小児専門連携施設における研修については、あいち小児保健医療総合センターを中心に、1年程度の研修を推奨している。

< 研修実施計画例 >

以下のような研修実施例があるが、各専攻医のニーズに応じて、アレンジ可能である。

■ 研修施設から選ぶ

- ✓ 名市大メインコース
 - ・名市大で2～3年間研修 → 連携施設で1～2年間研修
- ✓ 連携施設メインコース
 - ・連携施設で2～3年間研修 → 名市大で1～2年間研修
 - ・連携施設で2～3年間研修 → 別の連携施設で1～2年間研修

■ 研修内容から選ぶ

麻酔と集中治療（closed ICU・PICU）を同時に研修したい

名市大では、麻酔科主導による closed-ICU および PICU（pediatric ICU）を運営している。麻酔研修と同時に集中治療の研修開始しており、救急や院内急変症例、小児から成人まで幅広く経験できる。連携施設の中にも麻酔科管理による closed-ICU を有する施設が多く、これらの施設でも麻酔と集中治療を同時に研修できる。

心臓麻酔に重点をおいた研修をしたい

名市大では、TAVI、MICS、WATCHMAN（経皮的左心耳閉鎖術デバイス）など先進治療を含んだ多彩な症例を経験できる。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、日本周術期経食道心エコー（JB-POT）認定医・心臓血管麻酔専門医の取得を目指した研修が可能である。成人症例と並行して、小児心臓麻酔研修も可能である。連携施設でも成人心臓血管麻酔研修が可能。小児専門連携施設では、集中的な小児心臓麻酔研修が可能である。

超音波ガイド下末梢神経ブロックを習得したい

毎年、初心者向けの末梢神経ブロックハンズオンセミナーやカダバートレーニングを開催している。区域麻酔学会認定医・指導医や日本区域麻酔検定試験（J-RACE）合格者も多数在籍し、指導環境が整っている。連携施設においても区域麻酔に力を入れている施設が多く、研修可能である。

産科麻酔や無痛分娩を学びたい

名市大には周産期麻酔部門があり、周産期麻酔のエキスパートの下で、通常の帝王切開麻酔だけでなく、重症妊産婦管理や先天性疾患胎児の対応などを含めた周産期管理について研修できる。無痛分娩センターでは、麻酔科管理による硬膜外分娩を実施しており、多職種チームによる周産期管理を学ぶことができる。

ペインクリニックや緩和医療を学びたい

名市大いたみセンターでは、インターベンショナル治療や薬物療法を用いた従来のペインクリニック診療に加え、身体・精神の痛みの専門家から成る多職種チームによる難治性慢性痛に対する集学的診療に取り組んでいる。専属の心理士が常駐し、慢性痛に対する心理学的アプローチについても学ぶことができる。また、緩和ケア部との連携もあり、希望に応じて研修可能である。

救急医療に重点をおいた研修をしたい

名市大救急科との連携により、救命救急センターでの研修が可能である。救急科には麻酔科出身の救急専門医やその他の様々な背景を持つ指導医が在籍し、専門的な研修が可能である。連携施設においても、救急医療に力を入れている施設が多く、希望に応じて研修可能である。

<週間予定表>

名市大麻酔科ローテーションの一例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	麻酔	ICU	術前外来	麻酔	心臓麻酔	休み	休み
午後	麻酔	ICU	休み	麻酔	心臓麻酔	休み	休み
夜間	—	当直	—	—	副直	—	—

※ 副直は自宅待機。

手術麻酔研修・心臓麻酔研修

AM 8:00～ 毎朝の麻酔カンファレンスにて担当症例のプレゼンテーションを行う。

AM 8:30～17:00 指導医の下で、手術室～PACU・ICUまで周術期を通した麻酔管理を 研修する。術前・術後診察を行い、術前評価や術後鎮痛についても研修する。

一般的な全身麻酔症例のみでなく、区域麻酔や周産期麻酔についても研修する。

心臓麻酔は指導医と2人体制で担当し、経食道心エコーの研修を含めた、周術期管理を研修するとともに、心臓血管外科や循環器内科との術前カンファレンスや、心臓血管外科・臨床工学技士・看護師らとの術後カンファレンスにも参加する。

ICU研修

AM 7:30～17:00 毎朝のICUベッドサイドでのカンファレンス（当直・日勤間の申し送り＋主科とのカンファレンス）に参加した後、指導医とともにICU管理を担当する。院内急変発生時には指導医とともに対応する（Rapid Response Systemおよびコードブルーに対応）。毎週行われているICU患

者に関する各種カンファレンスに参加し、画像診断、栄養療法、抗菌薬適正使用・院内感染対策等を学習する。

- ・放射線カンファレンス：週2回
- ・NST（栄養サポートチーム）カンファレンス：週1回
- ・ICT（感染対策チーム）カンファレンス：週1回

その他の研修

研修期間後半を目安に、希望に応じて、専門的な研修の機会を取り入れている（上記の研修実施計画例を参照）。

- ・いたみセンター研修：多職種カンファレンス参加、外来診療、入院患者（持続神経ブロック、脊髄刺激電極埋め込み患者など）の担当
- ・無痛分娩センター研修：多職種カンファレンス参加、硬膜外分娩見習い研修など

当直・副直，週休・年休について

基本的には週休2日制（月～金曜研修）で、年休は10日以上取得可能。当直・副直は月数回担当がある。当直は指導医と2人体制で担当し、主にICU管理を行う。緊急手術や延長した手術麻酔にも対応する。翌朝のICUカンファレンスでは、当直専攻医がICU入室中の全患者のプレゼンテーション（申し送り）を行い、その場で指導医の捕捉・指導を受ける。

4. 研修施設の指導體制

名古屋市立大学病院（基幹施設）および15の教育連携病院により構成される。

<基幹施設> 名古屋市立大学病院

- <連携施設 A>
- (1) JA 愛知厚生連 安城更生病院
 - (2) 岡崎市民病院
 - (3) JA 愛知厚生連 海南病院
 - (4) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院
 - (5) 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター
 - (6) 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
 - (7) 名古屋第二赤十字病院
 - (8) あいち小児保健医療総合センター
 - (9) JA 愛知厚生連 豊田厚生病院
 - (10) 社会医療法人 大同病院
 - (11) 兵庫県立こども病院
 - (12) 伊勢赤十字病院
 - (13) 国立病院機構 東京医療センター

<連携施設 B> (1) 国立病院機構 豊橋医療センター

専門研修基幹施設：

名古屋市立大学病院

名市大麻醉科ウェブサイト URL <http://www.ncu-masui.jp/>



研修実施責任者：祖父江 和哉

kensyu@ncu-masui.jp

専門研修指導医：祖父江 和哉

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

田中 基

(麻醉, 周産期麻醉)

杉浦 健之

(麻醉, いたみセンター)

草間 宣好

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

徐 民恵

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

田村 哲也

(麻醉, 集中治療)

加古 英介

(麻醉, 集中治療, いたみセンター, 周産期麻醉)

太田 晴子

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

加藤 利奈

(麻醉, いたみセンター, 周産期麻醉)

井口 広靖

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

藤掛 数馬

(麻醉, 集中治療, いたみセンター)

仙頭 佳起

(麻醉, 集中治療, 周産期麻醉)

佐藤 玲子

(麻醉)

横井 礼子

(麻醉, 周産期麻醉)

専門医：

上村 友二

(麻醉, 集中治療, 周産期麻醉)

中西 俊之

(麻醉, 集中治療)

青木 優佑

(麻醉, 集中治療, 周産期麻醉)

辻 達也

(麻醉, 集中治療)

長谷川 達也

(麻醉, 集中治療, 周産期麻醉)

山添 大輝

(麻醉, 集中治療, 周産期麻醉)

麻醉科認定病院番号：55（西暦 1968 年 麻醉科認定病院取得）

施設の特徴

大学病院として高度先進医療を提供するとともに、名古屋都市圏の中核医療機関として地域医療に貢献している。教育熱心で様々な分野の専門性を持った指導医が多く在籍し、幅広い分野での研修環境が整っている。

- ① 日本集中治療医学会専門医研修施設。集中治療専門医が多数在籍し、麻醉科主導による closed-ICU および PICU を運営。重症 COVID 肺炎の管理にも積極的に関わっている。
- ② 日本心臓血管麻醉専門医認定施設。心臓血管麻醉専門医・JB-POT 認定医が複数在籍。
- ③ 日本ペインクリニック学会専門医指定研修施設。ペインクリニック専門医が複数在籍。いたみセンターでは、従来のペインクリニックに加え、多職種 of 専門家による集学的診療を経験できる。

- ④ 総合周産期母子医療センター指定。周産期麻酔部門があり、ハイリスク妊産婦の症例に対応している。無痛分娩センターでは麻酔科管理による硬膜外分娩（無痛分娩）を研修できる。
- ⑤ 救命救急センター指定。救急科が運営しているが、適宜研修可能。
- ⑥ シミュレーションセンター併設。各種シミュレーターが配備され、経食道エコーや気道確保等の練習が随時可能。毎年、麻酔科主催でのハンズオン講習や各種セミナーも実施している。

研修内容の特徴については、前述の研修実施計画例および週間予定表「名市大麻酔科ローテーションの一例」を参照。臨床のみでなく、定期的な勉強会の開催、学会発表・論文作成、臨床研究の指導においても、教育体制が充実している。

専門研修連携施設 A：

(1) JA 愛知厚生連 安城更生病院

病院ウェブサイト <http://anjokosei.jp/>

研修実施責任者：森田 正人 syrch127@ybb.ne.jp
 専門研修指導医：森田 正人 (麻酔, 小児麻酔, 集中治療)
 山本 里恵 (麻酔)
 谷口 明子 (麻酔, 心臓麻酔)
 久保谷 靖子 (麻酔)
 久保 貞祐 (救急, 麻酔)
 井上 雅史 (麻酔)
 岡野 将典 (麻酔, 救急)

麻酔科認定病院番号：246（西暦 1996 年 麻酔科認定病院取得）

施設の特徴

- ① 愛知県西三河南部圏最大の中核病院で常に東海地区マッチング率上位であり、優秀な研修医が多いため病院中が活気に満ちている。他診療科が麻酔科に非常に協力的であり、有能なメディカルスタッフと協働できる恵まれた職場環境が整っている。
- ② 高いレベルを誇る心臓手術麻酔を経験できる。開心術に加えて、ステントグラフト内挿術、TAVI 手術も多く行われている。日本心臓血管麻酔専門医認定施設であり、経食道心エコー（JB-POT）の資格や心臓血管麻酔専門医取得を目指すことができる。
- ③ 同様に他の外科系も名古屋大学を中心とした重要な中核病院であるため、レベルが高く多岐にわたる症例を経験できる。そのため麻酔管理能力の養成に適した環境である。外科、泌尿器科、産婦人科、胸部外科で内視鏡手術が導入されており、ロボット支援下手術も近々導入予定である。
- ④ 総合周産期母子医療センターを有しており、超低出生体重児を含めた新生児症例やハイリスク妊婦の麻酔も豊富に経験できる。日本小児麻酔学会認定医の指導の下、同資格を取得できる。
- ⑤ 集中治療、救急も麻酔科が関与しているため希望があれば活躍の場が大きい。
- ⑥ 手術麻酔において末梢神経ブロックを積極的に施行しており、十分な研修が可能である。
- ⑦ 出産・育児中にある女性医師をサポートできる体制がある。

(2) 岡崎市民病院

研修実施責任者：糟谷 琢映
専門研修指導医：糟谷 琢映 (麻醉)
 中野 浩 (麻醉, 集中治療, 救急)
 辻 麗 (麻醉)
 蓑輪 堯久 (麻醉)
専門医： 高 ひとみ (麻醉)
 梶山 加奈枝 (麻醉)

麻醉科認定病院番号：423

施設の特徴

- ① JB-POT 認定医による成人心臓麻醉管理および周術期経食道心エコーの指導がうけられる。
- ② 3D-TEE を併用した開心術および大血管手術（胸部ステント含む）の麻醉管理を経験できる。
- ③ ハイブリッド手術室での TAVI・大血管ステント挿入・感染ペースメーカーリード抜去の麻醉管理を経験できる。
- ④ 高齢者の手術が多く、高齢者麻醉の経験をつめる。
- ⑤ 健康な小児の一般的な麻醉経験をつめる。
- ⑥ 緊急手術麻醉を経験できる。
- ⑦ ロボット手術の麻醉管理を経験できる。
- ⑧ エコー下上肢ブロックは積極的に施行している。
- ⑨ 育児と麻醉の両立を積極的に推進。
- ⑩ 集中治療を研修可能。
- ⑪ 救急医療を研修可能。
- ⑫ ICLS, AHA-BLS, ACLS や JPTEC 等を院内で受講可能。
- ⑬ 病的高度肥満患者の減量手術の麻醉でファイバー挿管の上達を実感できる。

週間スケジュール

月AM8:20～カンファレンス＋術後診察、AM外来診察、AM・PM麻醉
火AM8:20～カンファレンス＋術後診察、AM外来診察、AM・PM麻醉
水AM8:20～カンファレンス＋術後診察、AM・PM外来診察、AM・PM麻醉
木AM8:20～カンファレンス＋術後診察、AM・PM外来診察、AM・PM麻醉
金AM8:20～カンファレンス＋術後診察、AM外来診察、AM・PM麻醉

(3) JA 愛知厚生連 海南病院

病院ウェブサイト <http://www.kainan.jaaikosei.or.jp/>



研修実施責任者：有馬 一 604623@kainan.jaaikosei.or.jp
専門研修指導医：有馬 一 (麻酔, 集中治療)
竹内 直子 (麻酔, 集中治療)
衣笠 梨絵 (麻酔, 集中治療)
関谷 晃憲 (麻酔, 集中治療)
大矢 真 (麻酔, 集中治療)

麻酔科認定病院番号：1249 (西暦2007年 麻酔科認定病院取得)

施設の特徴

- ① 地域の基幹病院として、また救命救急センターを併設しており、ほぼ全ての診療科が揃い豊富な症例を経験可能。
- ② 集中治療を同時研修 (麻酔科管理による Closed ICU での研修)。
- ③ JB-POT 認定医による成人心臓麻酔管理および周術期経食道心エコーの指導が受けられる。
- ④ 末梢神経ブロックに習熟した指導医により、難易度の高いブロックまで研修が可能。
- ⑤ 様々な救急疾患の初期対応、緊急手術麻酔管理、重症患者管理をシームレスに経験できる。

週間スケジュール

8：00- 8：30 勉強会 (金曜日)
8：30- 9：00 ICUカンファレンス (毎日)
9：00-12：00 麻酔科術前外来 (麻酔科標榜医が担当、毎日)
16：45-17：00 ICUベッドサイドでカンファレンス (毎日)
その他の時間は麻酔あるいはICU研修

(4) 医療法人豊田会 刈谷豊田総合病院

病院ウェブサイト <http://www.toyota-kai.or.jp/>

研修実施責任者：山内 浩揮
専門研修指導医：山内 浩揮 (麻酔, 集中治療, 救急)
梶野 友世 (ペインクリニック, 緩和)
黒田 幸恵 (麻酔, 集中治療, 救急, ペインクリニック)
吉澤 佐也 (麻酔, 集中治療, 救急)
専門医：鈴木 宏康 (麻酔, 集中治療, 救急)
小笠原 治 (麻酔, 集中治療, 救急)
春田 祐子 (麻酔, 集中治療, 救急, ペインクリニック)
永森 達也 (麻酔, 集中治療, 救急)

麻酔科認定病院番号：456 (西暦 1987 年 麻酔科認定病院取得)

施設の特徴

- ・ 地域基幹病院であり、ほぼすべての診療科が揃っているため豊富な麻酔症例を経験することができる。
- ・ 麻酔科医が 17 名在籍し、日本麻酔科学会指導医・専門医、JB-POT 認定医、日本集中治療医学会専門医、救急科専門医、ペインクリニック専門医が含まれ、指導体制がかなり充実している。
- ・ 救急救命センター指定を受けており、救急救命病棟 / ICU26 床を麻酔科が主導し管理運営している。そのためすべての診療科の重症患者管理を経験することができる。

- ・年間救急患者数約 22,000 名、年間救急車搬入台数約 8,400 件と愛知県内有数の実績を誇り、様々な救急疾患の初期対応、緊急手術麻酔管理、術後管理をシームレスに経験できる。ドクターカーを運用している。
- ・ペインクリニック外来（週 3 日）ならびに緩和ケア病棟・緩和ケアチームでの診療を経験することができる。

（５）名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

病院ウェブサイト <http://www.west-medical-center.city.nagoya.jp/>

研修実施責任者： 笹野 信子

専門研修指導医： 笹野 信子 （麻酔，集中治療，ペインクリニック）

加藤 裕子 （麻酔）

麻酔科認定病院番号：1156

施設の特徴

周産期センターがあるため、合併症がある帝王切開症例や新生児手術が多いことが特徴です。研修指定は、麻酔・ペインクリニック・集中治療です。

週間スケジュール

外来：月を除く，平日午前．ペインクリニックと術前外来

手術：月 整形外科 小児外科 消化器外科 眼科

火 消化器外科 呼吸器外科 耳鼻咽喉科 口腔外科

水 呼吸器外科 産婦人科 泌尿器科

木 産婦人科 耳鼻咽喉科 口腔外科

金 産婦人科 小児外科

集中治療室：平日全日

（６）名古屋市立大学医学部附属東部医療センター

病院ウェブサイト <http://www.emc.med.nagoya-cu.ac.jp/>

研修実施責任者： 伊藤 彰師 sho2ito@yk.commufa.jp

専門研修指導医： 伊藤 彰師 （麻酔，集中治療，ペインクリニック）

森島 徹朗 （麻酔，集中治療）

工藤 妙 （麻酔）

佐野 文昭 （麻酔，集中治療）

専門医： 香川 沙織 （麻酔）

山村 董平 （麻酔，集中治療）

麻酔科認定病院番号：768

施設の特徴

- ① 名古屋市の中心部に位置し、498 床を有する「救急に力を入れている総合病院
- ② 手術室の麻酔管理と麻酔科管理の集中治療（closed ICU）の研修環境が完備
- ③ 救急医療やペインクリニック・緩和医療にも麻酔科出身の専門医が携わり、希望により研修可

- ④ 日本集中治療医学会専門医研修認定施設、専門医取得のための指導
- ⑤ 日本周術期経食道心エコー認定医が複数在籍、認定医取得のための指導
- ⑥ 日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設、専門医取得のための指導
- ⑦ 超音波ガイド下末梢神経ブロック対象麻酔症例が豊富
- ⑧ 日本呼吸療法医学会専門医研修認定施設、専門医取得のための指導

週間スケジュール

- ・ 毎日、午前 8:30～8:45 麻酔症例カンファランス
- ・ 毎日、午前 8:45～9:15 ICU カンファランス
- ・ 毎日、午前 9:20～11:00 術前外来診察
- ・ 随時、担当症例の振り返り・ミニ勉強会
- ・ 毎週火曜日、午後 3:00～3:30 心臓外科術前カンファランス
- ・ 毎週水曜日、午後 3:00～3:30 ICU ICT カンファランス
- ・ 毎週木曜日、午後 2:30～3:00 ICU NST カンファランス

(7) 名古屋第二赤十字病院

ウェブサイト <https://www.nagoya2.jrc.or.jp/masui-syucyuiryoubu/>

研修実施責任者： 寺澤 篤

専門研修指導医： 棚橋 順治 (麻酔、集中治療、緩和、ペインクリニック)

寺澤 篤 (麻酔、集中治療)

平手 博之 (麻酔、集中治療)

田口 学 (麻酔、集中治療)

稲垣 友紀子 (麻酔、集中治療)

山崎 諭 (麻酔、集中治療)

古田 敬亮 (麻酔、集中治療)

名原 功 (麻酔、集中治療)

井上 芳門 (麻酔、集中治療、国際救援)

太田 祐介 (麻酔、集中治療)

村橋 一 (麻酔、集中治療、救急)

藤井 智章 (麻酔、集中治療)

専門医： 野崎 裕介 (麻酔、集中治療)

橋本 綾菜 (麻酔、集中治療)

竹下 樹 (麻酔、集中治療)

麻酔科認定病院番号：632

施設の特徴

- ・ 救命救急センターで救急疾患、外傷症例を数多く経験できます。
- ・ 周産期医療センターでもあり、産科症例も豊富です。
- ・ 心臓血管麻酔専門医認定施設です。
- ・ 集中治療部も麻酔科が管理していますので、重症症例の術中から術後の急性期の全身管理に、集中的に関わることができます。

(8) あいち小児保健医療総合センター

病院ウェブサイト <http://www.achmc.pref.aichi.jp>

研修実施責任者： 宮津 光範
専門研修指導医： 宮津 光範 (小児麻酔, 小児集中治療)
山口 由紀子 (小児麻酔)
加古 裕美 (小児麻酔)
小嶋 大樹 (小児麻酔, シミュレーション医学)
渡邊 文雄 (小児麻酔, 小児心臓麻酔, 小児区域麻酔)
専門医： 佐藤 絵美 (小児麻酔)
北村 佳奈 (小児麻酔, 小児心臓麻酔)
一柳 彰吾 (小児麻酔, QI)
谷 大輔 (小児麻酔, 小児心臓麻酔, 医用工学)
川津 佑太 (小児麻酔)

麻酔科認定病院番号：1472

施設の特徴

すべての外科系診療科がそろっている東海北陸地方唯一の小児専門病院である。

<当センターの強み>

1. 国内および国外小児病院出身の小児麻酔認定医から直接指導が受けられる。北米式の先進的な麻酔シミュレーション、レクチャーおよびケースカンファランスを効率的に組み合わせた独自の教育プログラムを実践している。
2. 小児麻酔技術の習熟に最適な泌尿器科や眼科の短時間手術症例が多く、短期間で効率よく経験値を上げることができる。仙骨硬膜外麻酔や末梢神経ブロックにも力を入れている。
3. 当センターは、小児心臓病センターを併設した心臓血管麻酔専門医認定施設である。新生児症例を含む複雑心奇形の心臓外科手術症例が右肩上がり増加中であり、小児心臓手術数において東海地方最多となる日も近い。経食道心エコーに習熟した心臓血管麻酔専門医の指導を受けながら充実した心臓麻酔研修が可能である。心臓外科医増員に伴い、小児心臓手術が同時2列並列で実施可能である。2021年2月より心臓移植待機目的のLVAD装着および管理を実施している。
4. 東海地方最大規模となる16床のclosed-PICUは、よく訓練された専属PICUチームにより管理されている。日本最大級のECMO症例数を誇る小児ECMOセンター機能を有しており、治療成績は極めて良好である。PICU研修も可能である。
5. 独立した小児救急チームが運営する小児救命救急センターを併設しており、ドクターカーを用いた迎え搬送を運用している。屋上ヘリポートを利用したドクヘリ搬送受入も積極的に行っている。

(9) JA 愛知厚生連 豊田厚生病院

病院ウェブサイト <http://toyota.jaaikosei.or.jp/>

研修実施責任者： 上原 博和 anest.trust@gmail.com
専門研修指導医： 上原 博和 (麻酔, 入退院支援センター)
小島 康裕 (麻酔, ペインクリニック)
長橋 究 (麻酔, プライマリケア, 区域麻酔, 老年麻酔)
岩 怜 (麻酔・小児麻酔)

麻酔科認定病院：1456

施設の特徴

- ・ 西三河北部における地域中核病院。豊田市の市民病院的役割を担う。
- ・ 地域中核災害医療センター、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院であり、年間救急車受け入れ約 7,100 件を行っている。ドクターヘリによる搬送受入、ドクターカーの運用も行っている。
- ・ 成人心臓血管手術が年間 100 例程度あり少人数の専攻医でローテーション担当することで経験値が多く得られる。
- ・ 周術期末梢神経ブロック、持続創部浸潤麻酔カテーテルを積極的に取り入れており、修練が可能である。
- ・ Hybrid 手術室が増設された。EVAR・TEVAR などの症例が増える予定である。
- ・ 手術支援ロボットを導入予定である。
- ・ 術前検査をスムーズに不備なく執り行うことが可能となる「入退院支援センター」(旧：術前検査センター)の運用と「麻酔科術前外来」に携わることにより、術前評価不足無く患者把握が出来る。
- ・ ペインクリニック専門医指定研修施設である。超音波ガイド下神経ブロック・X線透視下神経ブロックを積極的に取り入れており修練が可能である。
- ・ 日本緩和医療学会認定研修施設であり、緩和ケア講習会を定期的で開催している。

(10) 社会医療法人宏潤会 大同病院

研修実施責任者： 尾上 公一
専門研修指導医： 尾上 公一 (麻酔)
長崎 宏則 (麻酔)
神田 学志 (麻酔)
三宅 来夢 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：986

施設の特徴

年間2,000例を超える心臓血管手術以外の症例数を数え、一般的な臨床麻酔は豊富に経験できる。また、超音波ガイド下ブロックも習得できる。さらに緩和ケアチームや呼吸ケアチーム、栄養サポートチーム、摂食嚥下チームなど幅広くチーム医療に関わっており、希望者はチーム医療への参加も可能である。

(11) 兵庫県立こども病院

研修実施責任者： 香川 哲郎
専門研修指導医： 香川 哲郎 (小児麻酔)
高辻 小枝子 (小児麻酔)
大西 広泰 (小児麻酔)
鹿原 史寿子 (小児麻酔)
池島 典之 (小児麻酔)
廣瀬 徹也 (小児麻酔)
上嶋 江利 (小児麻酔)
末田 彩 (小児麻酔)

麻酔科認定病院番号：93

施設の特徴

小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

週間スケジュール

月曜日から金曜日（毎朝7時50分から8時まで）：心臓外科術前症例検討会

月曜日から金曜日（毎朝8時30分から9時まで）：術前症例検討会

月曜日から金曜日（9時から）：手術室での麻酔及び術前診察・術後回診等

水曜日（8時00分から8時30分まで）：抄読会

金曜日（16時30分から17時30分）：重症症例検討会

(12) 伊勢赤十字病院

研修実施責任者： 原 祐子
専門研修指導医： 原 祐子 (麻酔)
藤井 文 (麻酔)
中川 裕一 (麻酔)
北川 愛子 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：735

施設の特徴

- ① 三重県南勢地区の基幹病院としてほぼ全ての診療科が揃い豊富な症例を経験できる
- ② 成人心臓麻酔症例が多く JB-POT 認定医、心臓麻酔専門医も複数おり指導体制が整っているため資格が取得しやすい
- ③ 超音波ガイド下末梢神経ブロック対象麻酔症例が豊富であり、多彩な神経ブロックが行える
- ④ TAVI も豊富な症例があり、また WATCHMAN(左心耳閉鎖術)も今年から始まったのでハートチームで取り組んでいる

(13) 国立病院機構 東京医療センター

研修プログラム統括責任者：吉川 保

専門研修指導医：小林佳郎 (麻酔)
吉川 保 (麻酔・ペインクリニック)
櫻井裕教 (麻酔・集中治療)
森 庸介 (麻酔・集中治療・心臓麻酔)
安村里絵 (麻酔・集中治療・心臓麻酔)
加藤奈々子 (麻酔・産科麻酔)
吉武美緒 (麻酔)

認定病院番号 221号

特徴：東京医療センターは旧国立東京第二病院といわれた昭和43年から臨床研修指定病院に指定され、伝統的に医療従事者の教育研修に熱心な施設である。近年は地域との結びつきの強い急性期病院として、救命救急センター・地域がん診療連携拠点病院・東京都災害医療拠点病院・地域医療支援病院などの指定を受けるとともに、高度先進医療にも取り組んでいる。そして当センターの理念『患者の皆様とともに健康を考える医療の実践』を実行すべく、技術とシステムの改修に加え、診療・教育・研究を通して医療の質の向上を目指している病院である。

麻酔科としても、2016年から麻酔科術前外来を開設、2020年からAPSチーム、2021年から和痛チームが発足し、術前から術後まで周術期チームの核となるべく様々な取り組みを行っている。専門医以上のスタッフが多く、若手から中堅そしてベテランまでがバランス良く存在していることも特徴のひとつである。どの年代層も常に新しい事を取り入れ進化する努力を怠らないようにしている。また医局の枠にとらわれず、国内外で活躍する当院麻酔科研修を終えた多くの麻酔科医と交流する機会があるのも魅力の一つである。

③ 専門研修連携施設 B

(1) 国立病院機構 豊橋医療センター

研修実施責任者：安田邦光

専門研修指導医：安田邦光 (麻酔, 集中治療)
吹浦邦幸 (麻酔)

麻酔科認定病院番号：1298

施設の特徴

東三河地域の基幹病院の一つ。

一般床348床（うち緩和48）、重症心身障害40床の計388床。

消化器外科・脊椎手術を中心に脳外、耳鼻科、口腔外科等を応需しています。

手術室スタッフはじめ各科医師らとともによい雰囲気働けます。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2021年9月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、名古屋市立大学麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

名古屋市立大学病院 麻酔科

統括責任者：祖父江和哉 教授

実務担当：太田晴子（E-mail：haruko@med.nagoya-cu.ac.jp）

愛知県名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄1番地

TEL 052-851-5511（内線 8281） FAX 052-852-1148

E-mail：kensyu@ncu-masui.jp

website URL：<http://www.ncu.jp/>

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料『**麻酔科専攻医研修マニュアル**』に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

7. 専門研修方法

別途資料『麻酔科専攻医研修マニュアル』に定められた1) 臨床現場での学習, 2) 臨床現場を離れた学習, 3) 自己学習により, 専門医としてふさわしい水準の知識, 技能, 態度を修得する。

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って, 下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目: 手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し, ASA1～2度の患者の通常の定時手術に対して, 指導医の指導のもと, 安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目: 1年目で修得した技能, 知識をさらに発展させ, 全身状態の悪いASA3度の患者の周術期管理やASA1～2度の緊急手術の周術期管理を, 指導医の指導のもと, 安全に行うことができる。

専門研修3年目: 心臓外科手術, 胸部外科手術, 脳神経外科手術, 帝王切開手術, 小児手術などを経験し, さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと, 安全に行うことができる。また, ペインクリニック, 集中治療, 救急医療など関連領域の臨床に携わり, 知識・技能を修得する。

専門研修4年目: 3年目の経験をさらに発展させ, さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが, 難易度の高い症例, 緊急時などは適切に上級医をコールして, 患者の安全を守ることができる。

9. 専門研修の評価(自己評価と他者評価)

① 形成的評価

- 研修実績記録: 専攻医は毎研修年次末に, 専攻医研修実績記録フォーマットを用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック: 研修実績記録に基づき, 専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し, 研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマットによるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は, 各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し, 専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において, 専門研修4年次の最終月に, 専攻医研修実績フォーマット, 研修実績および到達度評価表, 指導記録フォーマットをもとに, 研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて, 各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識, ②専門技能, ③医師として備えるべき学問的姿勢, 倫理性, 社会性, 適性等を修得したかを総合的に評価し, 専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標, 経験すべき症例数を達成し, 知識, 技能, 態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において, 研修期間中に行われた形成的評価, 総括的評価を元に修了判定が行われる。

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

12. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。
- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての名古屋第二赤十字病院、岡崎市民病院、安城更生病院など幅広い連携施設が入っている。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大病院だけでなく、地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。